

# 軽症胃腸炎に伴うけいれんにおける代謝性アシドーシスを伴った症例の臨床的検討

井上 貴仁    井原由紀子    友納 優子  
中村 紀子    二之宮信也    藤田 貴子  
井手口 博    安元 佐和    廣瀬 伸一

福岡大学医学部小児科

要旨：軽症胃腸炎に伴うけいれん (benign convulsions with mild gastroenteritis : CwG) は、乳幼児期に胃腸炎に伴ってけいれんを生じ、てんかんへの移行や神経学的後遺症を認めない予後良好な疾患である。しかし、けいれんを起こす機序は解明されていない。軽症胃腸炎に伴うけいれんの52例をアシドーシス群と正常群の2群に分類し臨床的特徴と検査所見を比較検討した。血液ガス分析で25例(48%)に $\text{pH} < 7.35$ の代謝性アシドーシスがみられた。アシドーシス群でBase Excessが有意に低下していた。発症月齢、発作回数、発作持続時間、血糖値、血清 $\text{Na}^+$ 、血清 $\text{K}^+$ 、血清 $\text{Cl}^-$ 、Anion Gap (AG)、 $\text{HCO}_3^-$ で2群間の有意差はみられなかった。CwGとアシドーシスとの関連は明らかにならなかったが、CwGでは必ずしも軽症といえないアシドーシスを伴った症例が多く存在することが判明した。

キーワード：軽症胃腸炎に伴うけいれん、血液ガス分析、代謝性アシドーシス、Naチャンネル